

復活節第五主日

2010.5.2

(ヨハネ 13・31-33a,34-35)

今日の福音は、十字架の受難の死を前にした最後の晩餐の席でイエスが弟子たちに語られたおことばの一部です。イエス・キリストの十字架の死と復活の過ぎ越しの神秘を記念し祝って来た私たちは、復活節の今日のミサで、イエスが十字架の死を前にして語られた今日の福音のおことばを思い起こすことによって、今年も私たちが教会の典礼において祝ったことが、私たちにとってどのような意味を持つものであるか、あらためて味わうように招かれているのです。

今日の福音のおことばは、ご自分の受難の死がいよいよ目前に迫ったことを悟られたイエスが、それをどのように受け止めておられたかを示しています。最後の晩餐の席でイエスのお側近くにいた弟子たちは、あの時、イエスが語られることを理解出来ずにいました。その弟子たちがあの時イエスが語られたことを理解し、十字架の死を前にイエスが彼らに伝えようとした想いを受け止めることができたのは、復活されたイエスと出会うことによって、心の目を開かれたからです。そのようにして、最後の晩餐の席でイエスが語られたこれらのおことばは、イエスご自身がその十字架の死の意味を解き明してくださったおことばとして弟子たちの心の中に蘇り、彼らの心に焼き付けられたのです。そしてそれは、今や復活の主イエス・キリストに遣わされた弟子たちの宣教の中心的メッセージとして、弟子たちの宣教によって誕生した教会の信仰の基を生み出したのです。そのようにして私たちに伝えられた、私たちの信仰の中心には、あの最後の晩餐のときにイエスが解き明かしてくださった、イエスの十字架が立っています。あの時、イエスはご自分の十字架の死が全ての人のための神の決定的な救いのみわざであることを啓示してくださったのです。ここにこそ、キリスト教の信仰の中心的な神秘が示されています。今日私たちがあらためて聴いた最後の晩餐でのイエスのおことばは、その教会の信仰の中で聖書に書き留められ、十字架の死を前にしたイエスの想いを私たちに伝えていきます。約束しておられたとおりに弟子たちのもとに戻って来て、弟子たちの心を開いてくださった、今も私たちの中にいてくださる復活の主が私たちの心をも開いて、今日の福音に語られている、イエスの十字架の想いを私たちに悟らせてくださるよう祈りたいと

思います。

それにしても、今日の福音のイエスのおことばは、あの最後の晩餐の時の弟子たちにとってそうであったように、私たちにとっても、直ちには理解することが困難な事柄を語るおことばです。私たちにとっての慰めは、今日の福音の中に私たちにも分かるおことばが一つだけは見出すことが出来るということかもしれません。それは、言うまでもなく「私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」というお言葉です。これほど明白なおことばはありません。これが十字架の死を前にイエスが残された最後のおことばです。しかも、このおことばの前に、「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。」とイエスは語っておられます。私たちは「互いに愛し合いなさい」というイエスのこのおことばを受け入れることによって、最後の晩餐において示されたイエスの想いを受け止めさせていただき、それをイエスが与えてくださった新しい生き方を開く掟として、それに従って生きることによって、イエスの弟子となることが出来るのです。これほど明確な行動指針はありません。

けれども、私たちがいやというほど経験してきたように、そして今も心のうちに感じているように、このおことばの明快さが私たちをたじろがせます。「互いに愛し合いなさい」というイエスの新しい掟は、生身の私たちどうしが、お互いに向かい合って、お互いに愛しあうことを求めます。それがどれほど理想的であっても、それを生きることが如何に困難であるかを、生身の人間に過ぎない私たちは日々経験させられます。最後の晩餐の席でイエスが与えてくださったこの愛の掟が、パウロが旧約の掟について語っているように、私たちにそれを守ることが出来ないという罪の自覚しか生まないとするなら、イエスのこの新しい掟は決して新しい掟とは言えないことになってしまいます。今日の福音を聴くときに、私たちの心がこのような袋小路に迷い込んでしまうのは、あの最後の晩餐の時にイエスの語られた想いの全てを完全には受け止め切れていないからです。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」とのおことばだけを独り歩きさせているからです。

もう一度今日の福音に戻って、イエスのおことばに込められたイエスの想いの全てを受け止めさせていただきたいと思います。その前に、今日の福音の最初の部分で、イエスがこれらのおことばを語られたのは、愛する弟子の一人であっ

たユダがイエスと仲間たちの晩餐の席を離れて、夜の闇の中に出て行った後のことであると語られています。ユダは、イエスに敵意を抱き、イエスを殺そうとしていた人々の手にイエスを引き渡そうとして、夜の闇の中に出て行ったのです。そしてその夜の闇の中でイエスは人々の手に引き渡されるのです。こうしてイエスが予告されていたイエスの十字架の受難の時が始まろうとしています。まさにその時になって、イエスは「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった」と言われるのです。「人の子は栄光を受けた」とは、人の子としてのイエスの栄光が現されたということです。人の子としてのイエスの受難によって神の栄光が現されるということです。栄光は十字架に赴く人の子であるイエスから発する栄光です。人の子であるイエスの受難において神から発せられる神の栄光です。人間である私たちがこの栄光を仰ぐことが出来るのは、それが、出エジプト記のシナイの山において示されたように、私たちが救うことによって示される神の栄光だからです。イエスは今やご自分の十字架の死に至る受難において、その神の栄光が現されたと言われているのです。イエスの十字架の死は、イエスの十字架を取り巻く人々の思いを超えて、徹頭徹尾、神とその御子である「人の子」イエスの人々を救うことによって示される神の栄光の現れであると、イエスのおことばは告げているのです。

そのような神の栄光のうちにある十字架のイエスが、「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」と呼びかけておられるのです。私たちはイエスの十字架において、愛とはどのようなことであるかを知っています。愛とは、自分のいのちを要求する者たちのために、自らの意志で自分のいのちの一瞬一瞬を、従って自分のいのちの全てを引き渡し、与え尽くすことです。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」とは、十字架において示されたそのような神の愛の極限に私たちを招くおことばです。「わたしはこれほどにあなたがたを愛した。それは、あなたがたが互いに愛し合うためなのだ」と、その生涯を神の愛を地上にもたらすために生きられたイエスは言われているのです。

これがイエスの十字架において示された神の愛のお姿です。これら全てが、イエスの十字架の受難の死において示された、生身の人間である私たちには直ちに近づきがたい、神が神であることを示された神の栄光の現われなのです。

私たちがイエスの十字架のお姿の中に、私たちに示された神の栄光を仰ぎ見ることが出来るのは、弟子たちの心を開いてくださった復活の主が、私たちの心

をも開いてくださり、弟子たちが伝えた信仰の恵みを受け入れさせてくださり、それが私たちを救う、私たちのための神の愛の栄光の現れであると受け止めさせてくださったからです。

そのような信仰の恵みの中で、今年も私たちは主イエス・キリストの十字架の死と復活を記念する新約の過ぎ越しの祭りを祝って来ました。この復活節の日々、イエス・キリストの十字架と復活において示された、私たちのための神の愛の神秘をより深く心に刻んでゆきたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高

高円寺教会の主日の説教はインターネットでも読むことができます。

高円寺教会ホームページ <http://www.koenji-catholic.jp/>